

## 1

## 交通網の整備

都市活動が活発に行われるには、人の動き、物の動きが円滑に行われることが必要であり、そのためには、鉄道や道路など交通網の整備が欠かせない。

横浜の鉄道網は、ほぼ横浜駅を中心に敷設されているが、まだ鉄道に不便な地域や鉄道相互の連絡が不便なところが多い。また横浜の道路網は、東京から県央・湘南方面への交通に対しては比較的整備が進んでいるが、横浜を中心とする交通を円滑にするための道路整備はまだ十分ではない。

このため横浜市では、地域の一体化をめざして、都心部と郊外部の連絡、市内各地区間の連絡がより円滑にできるよう、地下鉄の建設、放射状と環状の道路の整備を行

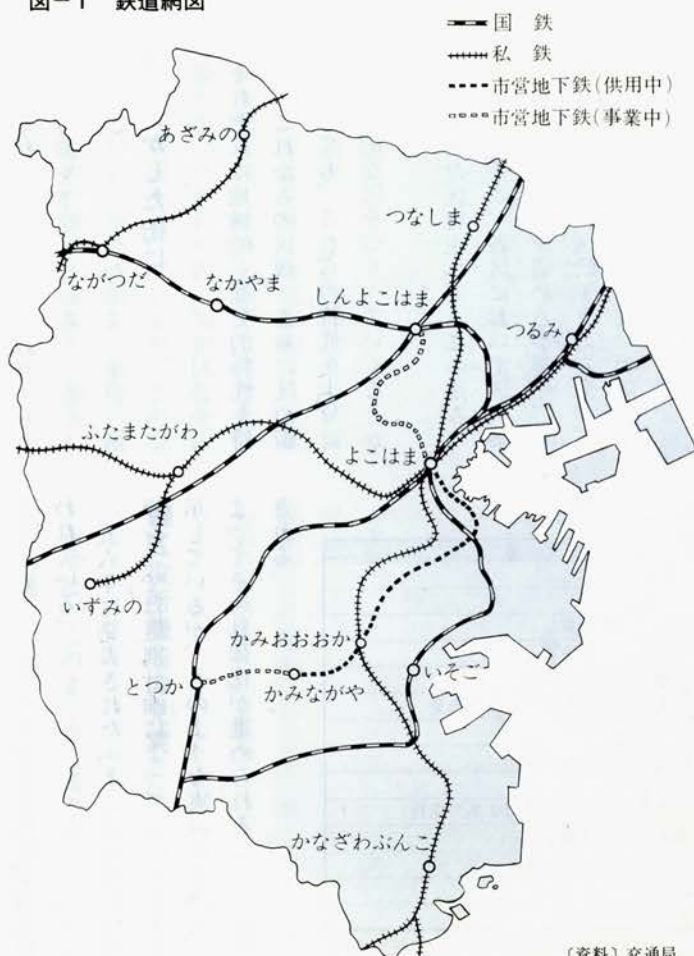
っている。

## ■鉄道網の整備

市民の通勤・通学、買物などに果たす鉄道の役割は大きい。市では、都心部と周辺部との連絡を密にするため、地下鉄の延伸を精力的に行っている。横浜↗新横浜間七・〇km、上永谷↗舞岡間二・〇kmは六〇

年四月開業を、さらに舞岡↗戸塚間一・六kmは六〇年以降の早期完成をめざしている。これらが完成すると、地下鉄の総延長は現在の一一・五kmから二二・一kmとほぼ倍になる。また、市民の利便性を良くするため新駅設置を進めており、東戸塚駅、十日市場駅の新設や駅の改良などを行ってきた。金沢埋立地と周辺地域の交通機関として国鉄新杉田駅↗京浜急行金沢八景駅間(延

図-1 鉄道網図



(資料) 交通局

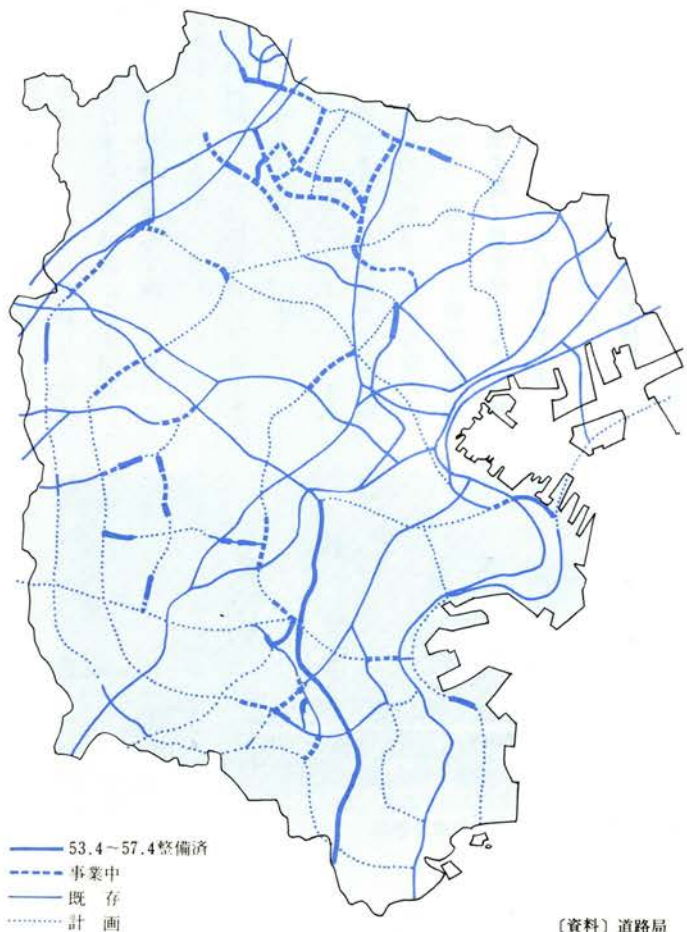
長一km)に新交通システム「金沢シーサイドライン」の建設が決まり、五七年度から事業に着手している。

新横浜駅における新幹線ひかり号の停車は、市、経済界、市民が一体となって国鉄などに要望してきたが、五一年に初めて停車が実現し、現在は上下線各三本にまで停車回数がふえている。今後も全面停車に向けて積極的に働きかけていく。

### ■ 道路網の整備

自動車は多様な輸送手段として、現代の都市活動には欠かせないものとなっている。市では、周辺部から横浜都心部へ直接乗り入れができるように高速道路網を整備している。横浜と羽田・東京都心を結ぶ高速道路は五三年に東神奈川から横浜公園まで延伸され、都心部へ初めて高速道路が乗り入れた。現在はさらに、新山下方面への一・八kmを建設中であり、五九年春完成の予定である。また、横浜横須賀道路も五四年に部分開通し、五七年に横浜市内分(狩場町(朝比奈町)が完成した。

図-2 都市計画道路整備状況



(資料) 道路局

港のシンボルともなるベイブリッジは、五五年に着工され六〇年代初期の完成をめぐり建設中であり、東京と横浜を結ぶ大動脈である東京湾岸道路の一部として早期完成が待たれる。

一方、一般道路については放射状や環状の道路の整備に力を注いでいる。現在、環状二号線、環状三号線、横浜鎌倉線、横浜

伊勢原線、丸子中山茅ヶ崎線などの都市計画道路を整備している。ここ二、三年で開

通した路線には、三ツ沢鳥山線、舞岡上郷線(天谷大橋)、新横浜元石川線などがある。現在は年間一〇km前後を整備し、数年前の

倍以上のペースで事業を進めている。そのほか、「みなとみらい21」など都心機能を充実するための道路整備も進めている。